

科目番号: 48

分野	専門分野(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	地域で生活する人々の暮らしと健康				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)					
目的 地域における人々の個々の暮らしを知り、対象の生活を見る視点を養う。					
目標 1. あらゆる発達段階、健康レベルの人々が地域でどのように生活しているか理解できる。 2. 暮らしや生活環境が人々の健康に影響を与えることが理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	生活と暮らし、地域と在宅、家族				講義
2	フィールドワークの導入(グループワーク:フィールドワークの視点の抽出、地域リサーチ)				講義・演習
3	フィールドワーク				演習
4	フィールドワーク				演習
5	フィールドワーク地域のリサーチ(人口構造、家族構成等)、自分の生活地域リサーチとの比較				演習
6	フィールドワークまとめ(支えあい生きるとは、人々の健康が生活の中でどのように保たれているか)				演習
7	フィールドワーク発表				講義・演習
8	レポート作成				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
フィールドワーク・グループワーク参加度30%、グループワークまとめ・発表30%、レポート40%とし、100点中60点以上を合格とする					
その他					
この科目はグループワークを中心に学習します。グループ内での役割を果たし、目標達成できるよう取り組みましょう。					

科目番号: 49

分野	専門分野(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	地域・在宅看護概論				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2(医学書院)					
目的					
在宅看護の目的および対象や場の特徴について理解を深め、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について学ぶ。また、地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステムの現状を理解し地域連携を学ぶ。					
目標					
1. 在宅看護の目的と対象および場の特徴について説明できる。					
2. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について説明できる。					
3. 在宅医療の基盤となる法律・制度、サポートシステムについて理解できる。					
4. 地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステムの現状を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	在宅看護の概念と歴史的背景				講義
2	在宅看護の対象とその特徴				講義
3	在宅看護が提供される場の特徴と倫理				講義
4	在宅看護の基本となるもの				講義
5	在宅療養者を支える家族の理解に有用な諸理論(家族システム論、カルガリー家族アセスメントモデル)				講義
6	地域包括ケアシステム				講義
7	在宅看護の基盤となる法律・制度および社会資源				講義
8	試験、《ゼミナール》オリエンテーション、探求するテーマの検討				演習
9	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム 調査計画書作成				演習
10	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム 調査				演習
11	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム 調査				演習
12	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム まとめ・考察				演習
13	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム まとめ・考察				演習
14	発表				演習
15	発表				演習
評価方法・評価基準					
筆記試験50%、グループワーク・発表50%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 50

分野	専門分野(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	地域における健康支援				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2(医学書院)					
目的					
地域で暮らす人々の健康の保持・増進に向けた集団指導のあり方について、諸理論を活用した指導教材の作成およびロールプレイを通して学習する。					
目標					
1. 健康の保持・増進のための集団指導に活用できる理論を知る。					
2. 対象の発達段階に合わせた健康の保持・増進に向けた集団指導を実施できる。					
3. 実施した指導を振り返り、集団指導のあり方について自らの考えを述べる事ができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	看護指導の意義と目的、集団指導と個別指導				講義
2	看護指導に活用可能な諸理論(アントラゴジー、ヘタゴジー、ジェロロジー、健康信念モデル、社会的認知理論)				講義
3	集団指導テーマの検討、計画の立案				演習
4	指導教材作成(生活習慣病の集団指導)				演習
5	指導教材作成(生活習慣病の集団指導)				演習
6	ロールプレイ、ディスカッション				演習
7	ロールプレイ、ディスカッション				演習
8	レポート作成				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
レポート80%、課題への取り組み20%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 51

分野	専門分野(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	療養者の暮らしを支える看護				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
					看護師
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2(医学書院)					
目的					
療養者が地域で自立・自律した生活ができるように支援する上で必要な他職種連携、継続看護および訪問看護の考え方について理解する。					
目標					
1. 療養者が地域で自立・自律した生活ができるように支援するための継続看護の意義について説明できる。					
2. 様々な対象の暮らしを支える訪問看護の役割と特徴が理解できる。					
3. 訪問看護における家族支援のあり方について理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	地域医療連携室の位置付けと役割、入院時スクリーニング				講義
2	退院に関わる問題点の明確化と目標の調整、院内での退院カンファレンス、退院支援計画				講義
3	退院前カンファレンス、家族のサポート力、療養先を見据えた社会資源の活用				講義
4	訪問看護の役割と法的基盤				講義
5	訪問看護における多職種連携、多職種ケアカンファレンス				講義
6	在宅における薬剤管理(内服薬、インスリン、麻薬)				講義
7	在宅における褥瘡予防とケア				講義
8	在宅で療養する小児の看護				講義
9	精神疾患をもつ在宅療養者の看護				講義
10	認知症を持つ在宅療養者の看護				講義
11	在宅における終末期ケア				講義
12	医療依存度の高い在宅療養者の看護				講義
13	訪問看護における家族支援				講義
14	訪問看護における家族支援				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 52

分野	専門分野(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	在宅看護技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	後期		看護師
					看護師
					看護師
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2(医学書院)					
目的					
在宅看護実践の基盤となる技術として、療養者・家族との信頼関係の構築および意思決定支援の技術、生活支援技術を身につける。また、在宅療養者が活用可能な福祉用具とその利用手続きについて理解する。					
目標					
1. 在宅看護における信頼関係構築のための接遇とコミュニケーション技術を身につけることができる。					
2. 在宅看護における意思決定支援の方法が理解できる。					
3. 在宅における日常生活援助の方法が理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	在宅看護における信頼関係構築・意思決定への支援の意義と目的				講義
2	信頼関係構築のための接遇・コミュニケーション技術				講義・演習
3	信頼関係構築のための接遇・コミュニケーション技術				講義・演習
4	在宅看護における意思決定支援の技術				講義・演習
5	在宅看護における意思決定支援の技術				講義・演習
6	在宅での生活支援の考え方				講義
7	福祉用具見学と利用手続き				演習
8	福祉用具見学と利用手続き				演習
9	在宅での清潔保持のための技術と物品の工夫(陰部洗浄、洗髪)				演習
10	在宅での清潔保持のための技術と物品の工夫(陰部洗浄、洗髪)				演習
11	在宅における排泄管理(自己導尿、膀胱留置カテーテル管理、排便管理)				演習
12	在宅における排泄管理(敵便)				講義
13	在宅での栄養管理技術(経管栄養法、中心静脈栄養法)				講義
14	在宅での看取り				講義
15	レポート作成・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
レポート60%、発表30%、演習への取り組み10%とし、100点満点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 53

分野	専門分野(地域・在宅看護論)				
科目名(必修)	在宅療養をする人の看護過程				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
					看護師
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2(医学書院)</p>					
<p>目的</p> <p>これまでの地域・在宅看護論での学習を統合し、事例を通して在宅療養者と家族の健康な生活を支えるための看護を考える力を養う。</p>					
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者世帯で医療処置が必要となった療養者および家族の問題点を考えることができる。 2. 療養者・家族が在宅療養を継続するうえで必要な、看護介入および社会資源の活用が理解できる。 3. 在宅における終末期看護のあり方について考えることができる。 4. 終末期にある在宅療養者と家族を支えるための看護師の役割と社会資源の活用が理解できる。 					
<p>授業計画・授業内容</p>					
回	授業内容				授業方法
1	高齢者・在宅療養者の理解 在宅酸素療法について				講義・演習
2	高齢者・在宅療養者の理解 在宅酸素療法について				講義・演習
3	事例を用いた機能別11パターンのアセスメント				講義
4	アセスメント発表会、討議				講義
5	看護計画、サービス計画立案				演習
6	看護計画、サービス計画立案				演習
7	看護計画発表、討議				演習
8	指導場面のロールプレイ、まとめ				演習
9	在宅における終末期看護				演習
10	在宅における終末期看護				講義・演習
11	事例紹介、アセスメント、患者目標の設定				講義・演習
12	患者目標の達成に向けた在宅終末期看護計画の立案				講義・演習
13	患者目標の達成に向けた在宅終末期看護計画の立案				講義・演習
14	在宅終末期の看護計画発表、討議				講義・演習
15	在宅終末期の看護計画発表、討議				講義・演習
<p>評価方法・評価基準</p> <p>各提出課題の内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。</p>					
<p>その他</p>					